

ブランド渋谷常盤松

Brands Shibuya Tokiwa Matsu

No. 06-020-2017作成

新築
集合住宅

発注者	東急不動産株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社熊谷組一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社熊谷組	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

都心を纏い、地の精神を承けた邸宅



北面外観

歴史が刻まれた邸宅街を継承し、地と共榮する「市中山居」

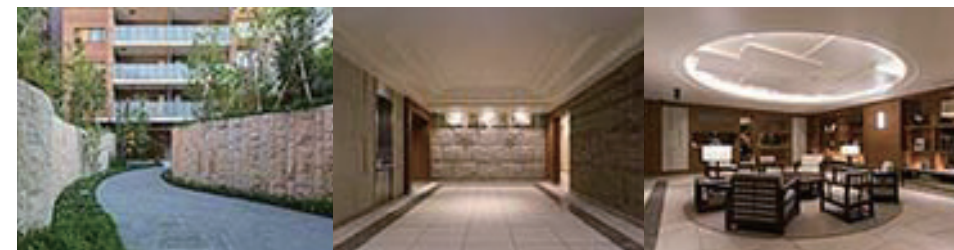
本計画は、渋谷、恵比寿、広尾、表参道駅より徒歩15分程、長い歴史が刻まれ、都心の社ともいえる緑あふれる常盤松の高台に位置する。時の重なりによる風格を作り出し、「おもてなし」する心と「くつろぐ」心のふたつの心を大切にしたい邸宅を創り出しました。

日本家屋の縁側のようにフレキシブルな空間を意識したエントランス。外壁のボーダーが外から内まで連なり、来訪者を招きながら正面の重厚な壁がアイストップとなり、部外者を寄せ付けない結界性をつくり、上質なランドスケープを演出します。

外壁に茶系で素材感のあるタイル、エントランス床には天然石の風合いを生かした御影石、エントランスの壁には大判の御影石とボーダータイルを使用し、邸宅の品格を高めました。

環境負荷低減を重視した共用部・専有部計画

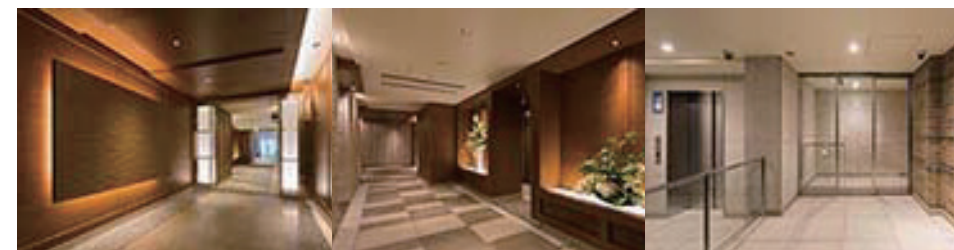
住宅性能評価劣化対策等級3、住宅性能評価基準の省エネルギー対策等級4を取得。専有部では、複層ガラス、エコジョーズ、フレッツ・ミルエネ、LED照明、保温浴槽サーモバスSなどの採用により、環境負荷低減に大きく寄与し、かつ室温環境に優れた居住空間を実現しました。



エントランスアプローチ

地下1階風除室

地下1階エントランスホール

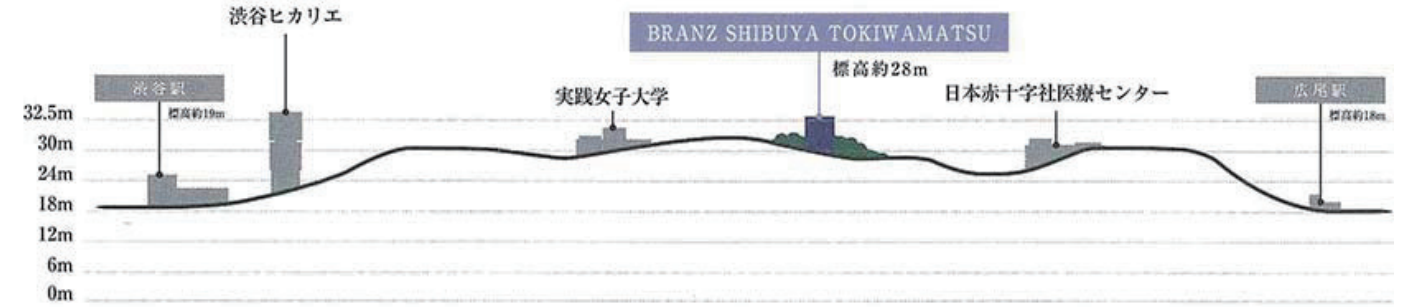
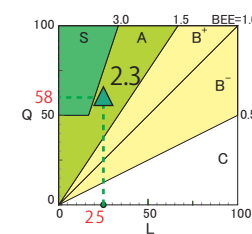


地下1階エレベーターホール

地下1階内部廊下

1階風除室

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	東京都渋谷区	Aランク
竣工年	2017年	BEE=2.3
敷地面積	1,913m ²	2010年度版
延床面積	8,709m ²	自己評価
構造	RC造	
階数	地下1階、地上13階	
	品確法省エネ対策	等級4
	ERR	14%
	LCCO ₂ 削減	16.07kg-CO ₂ /年m ²



高低差概念図

周辺の街並みと呼応しながら、邸へ緑を引き込む

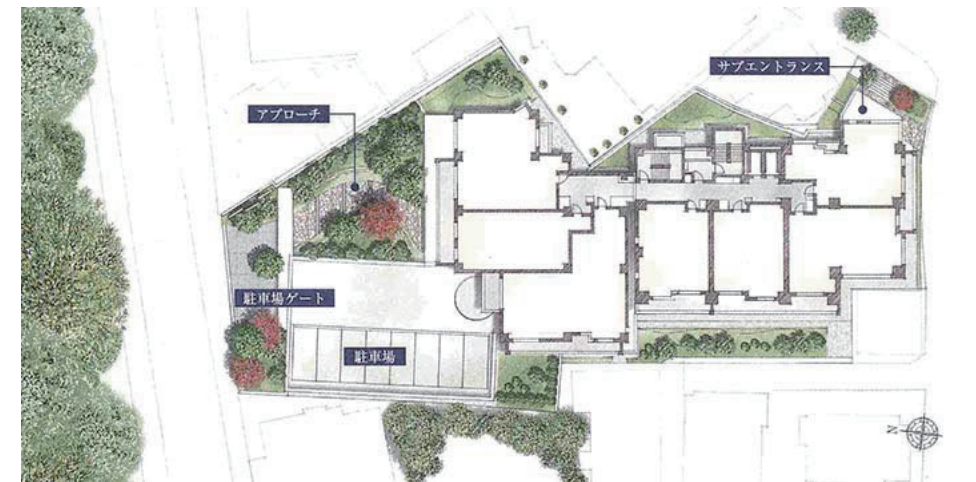
平安時代末期から戦国時代まで渋谷城が築かれた高台エリア。そこには、道路沿いの並木だけでなく、個々の邸宅や学校の広い敷地に植栽された樹々も美しく成長し、街全体が緑に包まれた、閑静な住環境があります。

南北に長い敷地特性を生かし、前面の通りから約25mもの奥行きをとり、アプローチをS字に湾曲させることで、道行きの愉しみを演出するとともに外部からエントランスが見えないよう結界性を高め、邸宅への道行きのプライバシーを高めます。前面道路に沿いシンボリックな姿を見せるゲートとその奥深くに佇む外観が、「隠れ家」としての邸宅の存在感を際立たせます。

奥行きあるアプローチに山景を創り、駐車場前にも季節ごとの彩を見せる植栽帯を設けることにより、道路の向かい側に豊かに繁る樹々が見せる趣を邸宅の内まで引き込みました。単に景観を繋げるだけでなく、この地の歴史を継承しながら街並みに新しい風景を創り出します。



エントランスアプローチ夜景



敷地配置イラスト

設計担当者
統括：平野謙/建築：庄司敏治、甲田智之/構造：梅田正芳、吉村由紀、
設備：藤井幸子、廣木大/電気：小林昌史、武田千愛

- 主要な採用技術 (CASBEE準拠)
- Q2. 2. 耐用性・信頼性(劣化対策等級3)
 - Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(奇抜な色彩を避けた外観計画、周囲への圧迫感を抑制)
 - LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制(複層ガラスの採用、省エネ等級4)
 - LR2. 1. 水資源保護(節水型機器の採用)
 - LR3. 2. 地域環境への配慮(浸透性舗装、ディスプレイ)